

4 調査結果

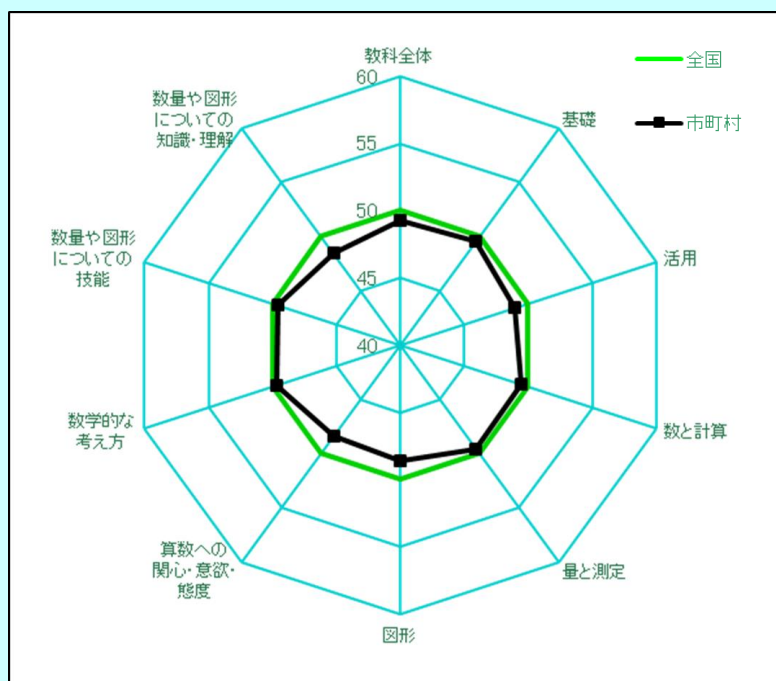
【小学校 第5学年】 平均正答率（％）

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、児童が正答できることを期待した割合を示したもの。

	目標値	香取市平均	全国平均
教科全体	62.2	61.8	63.1
選択式問題	60.3	60.3	61.5
短答式問題	70.0	70.2	71.2
記述式問題	27.5	17.9	23.3

「基礎・活用」「領域」「観点」の傾向

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



教科全体では、全国平均をやや下回る結果となった。特に、記述式問題に課題が見られる。また、「基礎」は全国平均とほぼ同程度であるが「活用」は下回っている。自らの考えを言葉や図、数直線などを使って分かりやすく表現したり、発展的な問題に取り組んだり、算数科における思考力・表現力を高めるための学習を計画的に取り入れる必要がある。「領域」別に見た場合、「図形」が全国平均を下回っている。合同な図形を作図するための条件を尋ねる問題の正答率が低いなど知識の定着に課題が見られた。「観点」別に見た場合、「算数への関心・意欲・態度」や「数量や図形についての知識・理解」が全国平均を下回っている。課題が見られる内容に関する知識のより確かな定着や、算数科の学習に対する児童の意欲向上を図るための指導の工夫が必要である。

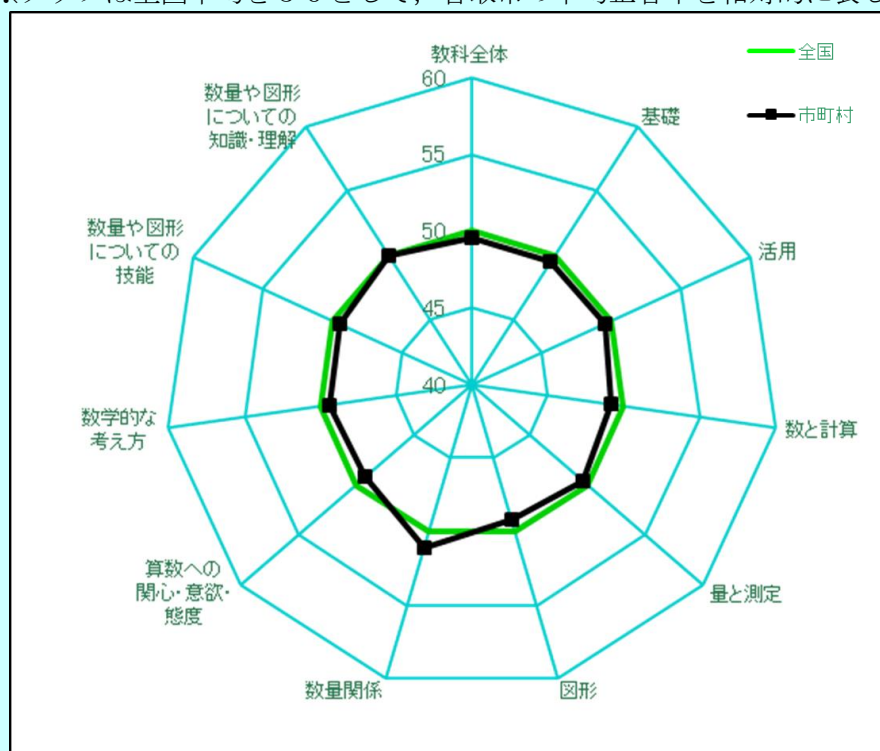
【小学校 第6学年】 平均正答率 (%)

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、児童が正答できることを期待した割合を示したもの。

	目標値	香取市平均	全国平均
教科全体	71.4	72.2	73.1
選択式問題	65.0	65.0	66.6
短答式問題	80.9	82.5	82.9
記述式問題	45.0	46.3	45.4

「基礎・活用」「領域」「観点」の傾向

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



教科全体では、全国平均をやや下回るが、ほとんど同程度であり、概ね良好といえる。特に、課題とされていた記述式問題が全国平均を上回るという成果が見られた。無答率も低く、ほとんどの児童が自らの考えをもち、表現することができていた。また、「活用」に関しても全国平均との差は1点であり、6年生児童の算数科における思考力・表現力の向上が見られる。「領域」別に見た場合、全国平均とほぼ同程度で「数量関係」に関しては全国平均を上回っている。「図形」における拡大図と縮図に関する問題に課題が見られた。「観点」別に見た場合も、全国平均とほぼ同程度の結果となった。「算数への関心・意欲・態度」がやや低く、算数科の学習に対する児童の意欲向上を図るための指導の工夫が必要である。

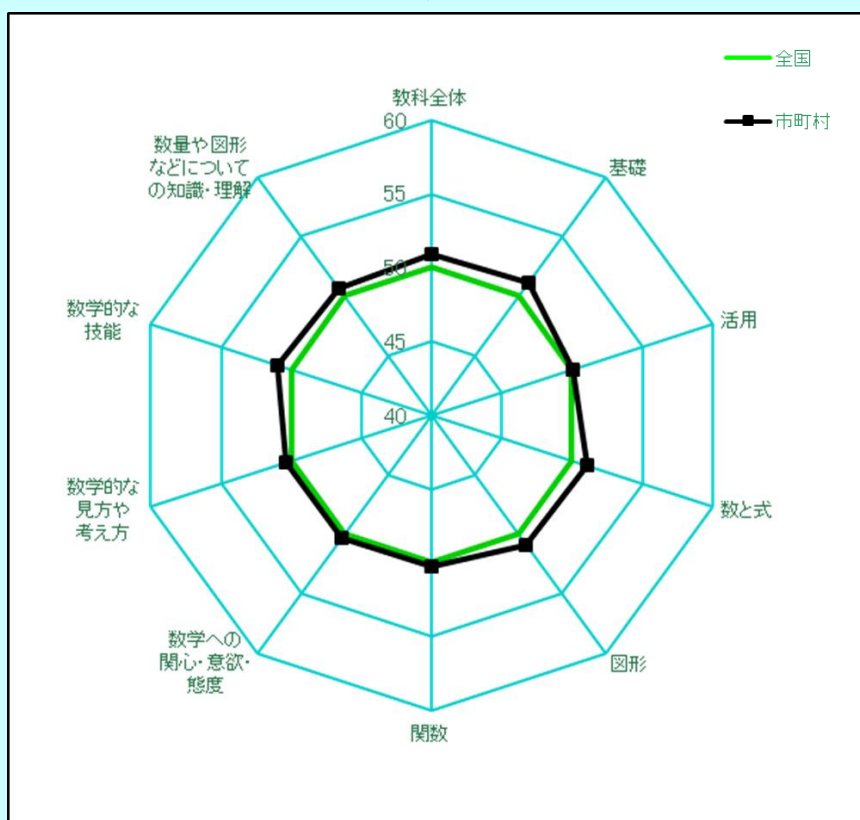
【中学校 第1学年】 平均正答率（％）

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、児童が正答できることを期待した割合を示したもの。

	目標値	香取市平均	全国平均
教科全体	66.5	69.3	67.3
選択式問題	69.3	72.6	71.0
短答式問題	65.3	68.0	65.5
記述式問題	55.0	56.1	55.9

「基礎・活用」「領域」「観点」の傾向

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



教科全体では、全国平均をやや上回り、概ね良好といえる。「基礎」「活用」ともに全国平均を上回り、課題とされていた記述式問題に関しても全国平均を上回るという成果が見られた。また、「領域」「観点」ともにすべての数値が全国平均を上回っている。「数学に関する関心・意欲・態度」に関しても、全国平均を上回り、数学の学習に対して意欲的に取り組む態度が育っていることが伺える。分数を含む1次方程式を解く問題や文章問題を解くための方程式を立式する問題の誤答率が高く、正しく理解できていないことが分かる。課題が見られる内容について学び直しをする機会を設け、類似問題にとりくむなど、正しい理解と知識の定着を図る必要がある。

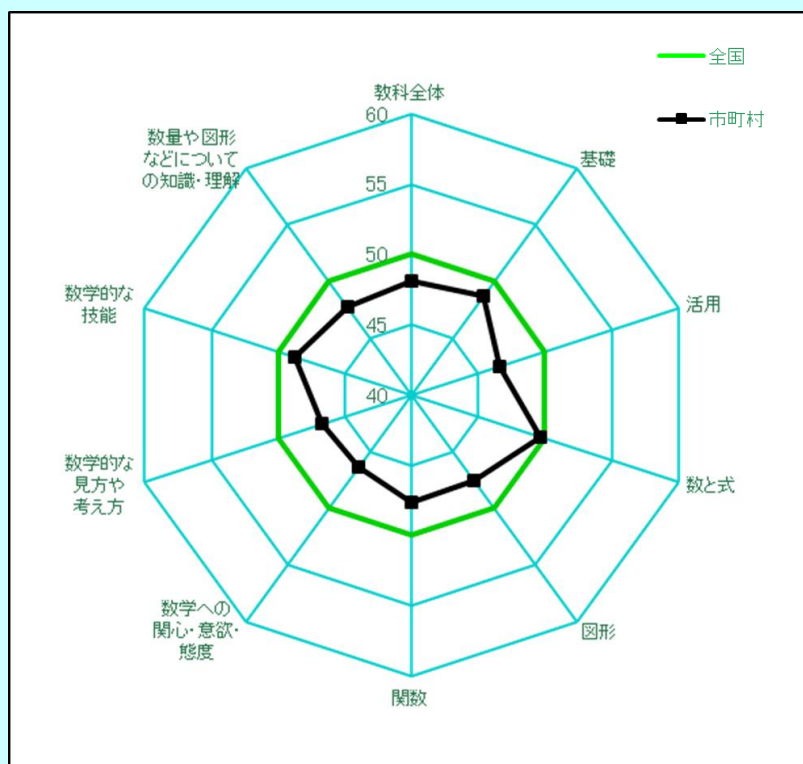
【中学校 第2学年】 平均正答率 (%)

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、児童が正答できることを期待した割合を示したもの。

	目標値	香取市平均	全国平均
教科全体	60.3	56.0	60.7
選択式問題	59.3	55.8	59.2
短答式問題	63.2	59.4	64.1
記述式問題	40.0	24.6	39.2

「基礎・活用」「領域」「観点」の傾向

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



教科全体では全国平均を下回り、課題が見られる結果となった。特に「活用」に関しては、全国平均を大きく下回っている。また、記述問題に関しても、全国平均を10%以上下回り、数学科における思考力・表現力について課題が見られる結果となった。「領域」別に見ると、「数と式」は全国平均と同程度であるが、「図形」「関数」に関して課題が見られる。「観点」別では、特に「数学に関する関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」に課題が見られる。文章問題を読んで立式したり、記述で説明したりする問題を苦手とする傾向が見られた。必要な情報を整理して表現したり、他者に説明する活動をしたりすることで、自分の考えを的確に適切に表現する力の向上が求められる。また、数学の学習に対する意欲を高めるための指導の工夫を行うことも必要である。